

コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱迅速診断キットの実用化 (医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS))

- エボラ出血熱は、コンゴ民主共和国を中心にアフリカで散発的な流行を繰り返している。本研究グループは、エボラウイルス抗原を検出するイムノクロマト法による迅速診断キット(QuickNavi-Ebola)を開発し、2018年～2020年に同国でエボラ出血熱が流行した際には本キットを流行地に送り、診断補助として試験的に導入した。その結果、標準法である定量PCR法との比較によって本キットの高い感度と特異性が確認され、2021年3月には独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)による日本国内での製造販売承認を取得、日本での認証取得をもって2024年6月にはコンゴ民主共和国保健省から国内使用許可を取得した。^{*1}
- 本キットは診断結果を約10分で判定し、室温での保存も可能で特別な器具や装置を必要としないことから、医療施設が十分に整っていない遠隔地での使用も期待されている。今後発生するエボラ出血熱患者の迅速診断を可能とすることにより、感染拡大防止につながる事が期待される。

<参考>

- 課題名：アフリカにおけるウイルス性人獣共通感染症の疫学に関する研究
- 研究期間：平成30年度～令和5年度
- 研究代表者：(日本) 北海道大学 高田 礼人 教授
(コンゴ民主共和国) 国立生物医学研究所
Muyembe Tamfum Jean-Jacques 総括所長
(ザンビア共和国) ザンビア大学
Edgar Simulundu 准教授

エボラウイルス抗原迅速診断キット「クイックナビ™—Ebola」がコンゴ民主共和国において 国内使用許可を取得しました



[※1成果のプレスリリース](#)